

あいち病害虫情報 最新情報

令和 8 年 8 月 1 8 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

名古屋地方気象台 8 月 13 日発表の 1 か月予報によれば、向こう 1 か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並で、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、適期防除を心がけましょう。作業は朝夕の涼しい時間帯に行くなど、健康管理に留意しましょう。

トビイロウンカ

8 月上旬に実施した巡回調査において、トビイロウンカの発生は確認されていません。また、予察灯においても誘殺されていません。

斑点米カメムシ類

8 月上旬の巡回調査における水田内のすくい取り調査では、過去 10 年間と比較してやや少ない状況ですが、予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺数は多い状況です。地域やほ場によって状況が異なるため、発生している斑点米カメムシ類の種類に応じた薬剤防除を検討しましょう。防除対策については、8 月 3 日発表の「斑点米カメムシ類情報第 3 号」を参考にしてください。

ニカメイガ

予察灯は、弥富市では 7 月中旬頃から、西尾市では 7 月下旬頃から成虫の誘殺数が増加しています。近年被害の多い地域では、遅い作型の被害に注意しましょう。防除対策については、7 月 3 日発表の「ニカメイガ情報第 1 号」を参考にしてください。

ダイズのオオタバコガ、シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ

オオタバコガについては、8 月上旬調査における幼虫の寄生株率は平年並です。ダイズほ場に設置したフェロモントラップにおける誘殺数は平年並から少ない状況ですが、今後の気温が高く推移することが予想されることから、発生量が増えるおそれがありますので、ほ場内を観察し、幼虫の発生を確認したら速やかに防除しましょう。防除対策については、7 月 3 日発表の「令和 8 年度病害虫発生予察注意報第 4 号」を参考にしてください。

シロイチモジヨトウについては、8 月上旬調査で幼虫の寄生が広く確認されています。ダイズほ場に設置したフェロモントラップにおける誘殺数は平年並です。本種は近年増加傾向のため、発生状況に注意が必要です。幼虫の発生を確認したら速やかに防除しましょう。防除対策については、7 月 3 日発表の「令和 8 年度病害虫発生予察注意報第 5 号」を

参考にしてください。

ハスモンヨトウについては、8月上旬調査における幼虫の寄生株率は平年並です。ダイズほ場に設置したフェロモントラップにおける誘殺数は、安城市で多く、西尾市及び豊田市で平年並、弥富市で少ない状況です。今後の気温が高く推移することが予想されることから、発生量がさらに増えるおそれがありますので、ほ場内を観察し、幼虫の発生や白変葉を確認したら速やかに防除しましょう。

ダイズの吸実性カメムシ類（ミナミアオカメムシ）

予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺数は多い状況です。向こう1か月の気温は高いと予想されており、本種の活動に好適な条件となる可能性があります。また、水稻収穫済みの水田から近隣のダイズほ場にミナミアオカメムシが移動する可能性があるため、近隣の水田も含めて本種の発生状況に注意し、子実肥大初期（開花30～40日後）に防除を行いましょう。

果樹の病害

7月下旬の巡回調査において、ブドウべと病の発病葉率はやや高くなっています。薬剤防除や発病葉をほ場外に持ち出すなど防除を徹底しましょう。

果樹の害虫

クビアカツヤカミキリの発生地域が拡大しています。6～8月は成虫の活動が盛んな時期です。果樹園（モモ、ウメ）で成虫を確認したら、直ちに捕殺し、適用のある農薬を散布しましょう。防除対策は、5月18日発表の「クビアカツヤカミキリ情報第1号」を参照してください。

ナシのハダニ類の7月下旬の寄生葉率はやや高い状況です。ほ場での発生状況に注意して防除しましょう。

新城市の予察灯におけるツヤアオカメムシ及びチャバネアオカメムシ成虫の誘殺数は過去10年と比較してやや多い状況です。詳細は本日発表の「令和8年度病害虫発生予察注意報第6号」を参照して下さい。また離脱時期の予測については、8月3日発表の「果樹カメムシ類情報第2号」を参照してください。

カンキツほ場に設置したチャノキイロアザミウマの粘着トラップによる直近1か月の誘殺数は、多い状況です。ほ場での発生状況に注意して防除しましょう。

野菜・花き類はチョウ目害虫に注意！

オオタバコガ、シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、概ね平年並の状況です。しかし、近年はこれら害虫の発生が多い傾向であることから、今後の発生状況に注意してください。

コナガのフェロモントラップにおける誘殺数は、概ね平年並です。ほ場や育苗ほをよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。

ハイマダラノメイガは、発芽、定植直後に加害されると被害が大きくなります。は種か

ら定植時に薬剤を処理するなどして、初期被害を防ぎましょう。
育苗ほでは防虫ネットを設置してチョウ目害虫の飛来を防ぎましょう。

ブロッコリー、キャベツは黒すす病に注意！

近年、本病の発生が一部地域で問題となっています。本病は孢子により空気伝染し、病斑は下位葉から上位葉や花蕾へ広がり、一度発生が広がると防除が困難になります。育苗中は高温多湿を避け、早期発見に努めるとともに発病株は早期に処分しましょう。

なお、ブロッコリーでは一部系統の殺菌剤の感受性が低い菌株を確認していることから、薬剤選択は指導機関に相談しましょう。

トマトキバガの9月以降の発生に注意（トマト、ミニトマト）

過去2年に実施したフェロモントラップによる調査では、概ね9月以降に成虫の誘殺数が増加する傾向でした。このため、今後は発生が増加する可能性がありますので、ほ場をよく確認し、発生状況の把握に努めましょう。

また、施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm 以下）を設置して施設内侵入を防ぐとともに、定期的に農薬による防除を行いましょう。なお、農薬の感受性低下を防ぐため、異なる系統の農薬をローテーション散布しましょう。

疑わしい被害葉及び果実は、ほ場やハウス周辺に放置せず、速やかに土中深くに埋却するなど、適切に処分しましょう。ほ場で初確認した場合は、病虫害防除室またはお近くの農業改良普及課へお知らせください。

フェロモントラップなどの各種調査データは、HP「あいち病虫害情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病虫害防除室 TEL 0561-41-9513 FAX 0561-63-7820
